

被爆66年の夏 心新たに被爆者をつくらない決意を新たに 核兵器全面禁止アピール署名をひろげよう

広島と長崎への原爆投下から66年目の夏

66年前、アメリカの投下した二つの原子爆弾によって広島と長崎は一瞬にして廃墟と化し、20万余の人々が命を奪われました。その後遺は、いまなお被爆者の心と身体をさいなんでいます。被爆者はその苦しみを乗り越え、核兵器の使用は人類に対する犯罪であると告発し、核兵器廃絶を訴え続けてきました。その声はいまや世界のゆるぎない流れとなっています。

核兵器の脅威を一刻も早くなくすために、核兵器全面禁止が緊急課題となっています。

国内外で広がる核兵器全面禁止の声

核兵器廃絶をめぐる情勢は、2010年核不拡散条約(NPT)再検討会議の合意の実行、とりわけ「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ための枠組みづくり、核兵器禁止条約などの特別な努力の実行を最大の焦点として動いています。広島・長崎の被爆から66年、原水爆禁止の運動は核兵器をめぐる世界の流れを大きく変えてきました。

つぎのNPT再検討会議の準備は2012年に始まり、2014年には核兵器国が「自国の核兵器の完全廃絶」も含め、核兵器廃絶の努力の進捗状況を報告することが求められています。

このプロセスを核兵器廃絶達成へと実らせていく上でも、約束実行を迫る国際政治への働きかけと世界的な世論動員のとりくみが本当に重要になっています。

秋の国連総会に署名を持ち寄ろう

8月3日から9日まで、原水爆禁止2011年世界大会が被爆地である広島と長崎で開かれます。今年の世界大会には、東日本大震災や福島原発事故の被災地の代表、国連代表をはじめ、核兵器廃絶の先頭に立つエジプト、メキシコ、キューバなど非核国政府の代表、アメリカ、ヨーロッパの反核平和団体、中国、韓国などアジアの平和団体の代表、ロシア、アメリカ、マーシャルなど核被害者の代表が一堂につどいます。

大会は、「核兵器のない平和で公正な世界を」をテーマに、核兵器のない世界を実現するために討議、交流します。この大会の中で、現在集めている「核兵器全面禁止のアピール」署名(目録)を国連代表に手渡します。あなたの職場、地域、学園から、この署名を集め、秋の国連総会に届けましょう。



原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4
TEL.03-5842-6031 FAX.03-5842-6033
<http://www.antiatom.org/>